令和７年度　伊那市立西春近南小学校評価表

学校関係者評価；（A：十分達成された　B：ほぼ達成された　C：不十分であった）　自己（項目間相対を加味した到達度）評価（a：十分達成された　b：ほぼ達成された　c：不十分であった）

学校教育目標	重点目標（中長期的目標）
『恕』の心をもって 自己の生き方を拓く子どもの育成	学び合って高める子ども 違いを認め、思いやる子ども 地域を学ぶ子ども
	今年度の重点目標
	(1)　主体的・対話的で深い学びにつながる「授業改善」と学習を支える「体づくり」 (2)　自他の良さや多様性を認め、安心して自己表現できる「学級・学校づくり」 (3)　地域に親しみ、地域に関心を寄せる「地域学習」

総合評価

○学習や生活、対人面、諸行事において、個に応じた支援を行うよう全職員で努めた。『「恕」の心をもって自己の生き方を拓く子どもの育成』を学校教育目標として位置づけて取り組んできた。特に今年度は「児童の主体性」「それを支える教師の在り方」に重点をおいた研究を進め、児童理解に基づいた個別対応や学級指導により、子どもたちの主体的な学びや取り組みが様々な場面で見られた。
○学校アンケートでの質問「学校へ行くのが楽しい」「思いやりの心をもち協力・仲良くしている」の結果は、いずれも児童・保護者共に約９０％が「十分」「概ね十分」と答えており、児童が安心できる学校づくりが進んでいる。今後も、低評価の児童・保護者への支援や細部の見返し・働きかけに取り組んでいく必要がある。

成果と課題	評価	具体策・向上策
(1)　本年度は、「児童の主体性」「それを支える教師の在り方」を研究の柱にして授業改善や指導の向上を図ってきた。学習場面だけでなく、学校行事でも児童の主体性を大事に進めてきたことで、子どもたちの学びや活動への満足感が上がった。今後の課題として、時間確保や職員の意識の共有にさらなる工夫が挙げられる。	A a	○次年度は、子どもたちの思いを把握し、具現化するためと、道筋を職員間で共有するための時間を確保する。 ○教科学習、学級活動などでも、教師主導ではなく、児童が自主的に学ぶ意欲とそれを支える手立てや支援について職員間で共有していける研究体制を継続かつ充実していく。
(2)　日常授業や諸生活、行事等で、一人一人の活動の良さやがんばりを様々な形で教師が認めたり、互いに認め合ったりしてきた。また、人権旬間（５月）・月間（11月）の場でも多様な価値に触れる機会を設けてきている。特別に支援が必要な児童についての理解や接し方、支援について、今後も大事に考えていきたい。	A a	○学級での生活、児童会での活動、全校縦割り班活動等の中で、個々の良さについてことあるごとに触れ、自覚を促し、豊かな心の醸成を目指していく。 ○特別支援学級の児童だけではなく、通常学級内で学習面や情緒面等で特に配慮が必要な児童本人やその周りの児童への支援指導を細かに検討する機会を取っていく。
(3)　交流作業やふくじゅ園訪問等が実施でき、地域の方や施設との触れ合いができた。学校アンケートでは、児童・保護者共に約９０％「十分」「概ね十分」の評価をしているが、更にその内容も充実させていきたい。	A b	○地域との関わりや地域に学ぶことを充実させるために、イベントや行事だけでなく、生活や総合的な学習の活動に位置付けていけるよう、計画や見通しを持つ段階で職員が地域を眼差す時間を作りたい。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	具体策・向上策
教育活動	教育課程	○児童の実態・意欲を考慮し、主体的に学習や活動に取り組むことができる教育課程の展開	○子どもの意欲を的確にとらえ、育ちの姿や学びの過程を考慮しながら学習活動を展開し、子どもの個性や能力を伸ばすことができたか。	○毎学期の「子どもと向き合う日」で、児童一人ひとりと担任が個別に面談し、相談を受けたり支援をしたりしてきた。教師としても子どもの意欲や学びをとらえ、その後の学習活動に生かすサイクルができている。授業毎時間の振り返りのさらなる充実が必要であることを感じている。	B a	○「子どもと向き合う日」の内容について職員間で情報を共有し、児童の心身の様子だけでなく、学びの在り方についても相談し合ったり高め合ったりするよう努める。 ○行事づくりだけでなく、授業づくりについても職員間でさらに高め合えるよう研究体制をはじめ、気軽に話せる場づくりを進めていきたい。
		○個を大切にし、個々に必要な学びの場や学び方を考慮した教育課程の工夫	○学校生活で、『恕』思いやりの心を育てたり、本物に触れ心を豊かにしたり、体力を向上したりすることを通して、個々の力を伸ばす教育課程を展開することができたか。	○縦割り班の清掃活動や南風っ子まつりなど、異年齢交流による「思いやりの気持ち」の醸成を図ることができた。ICT の活用も進み、その子らしい学びや個にあった学び方についても醸成してきている。体力の向上について日々の意識向上を目指したい。	B b	○校内校外問わずクラス以外の交流や関わりを積極的に進めることで、さらに他者理解や思いやりの心を伸長していく。 ○交流作業やユカイナなど本校ならではの体験活動を通して、地域に生きる私について目を向け、私の可能性を広げる視点を意識した活動を展開する。
	学習指導	○指導要領に則した年間指導時数の確保	○指導要領に照らし合わせ各教科等の年間指導時数を確保し、指導時間の過不足がないように計画的に指導できたか。	○学期末に各教科の時数充足率を示し、次学期の見通しを持った。余剰時数を減らすために、音楽会、運動会などの行事を見越して、音楽や体育の時数を調整したり、単元を組み替えたりするなど、一年を俯瞰しての計画を立てた。	A a	○教材研究を充実させることで、児童の実態に合わせた時数配分を工夫するとともに、より個に応じた指導計画を練り授業を行っていく。支援員の配置も継続させたい。 ○行事に関わる活動時間を検討するとともに、生活科や総合的な学習についても、「つける力」を明確にして年度当初から見通しをもちながら進めていくようにする。
		○基本的な学力向上のための授業改善	○１時間の主眼を明確にすることで、本時「つける力」を意識した授業づくりを行うとともに、まとめ（一般化）・みとどけのある授業を展開することができたか。	○「つける力」についてはICT 機器の利用により、個別最適な学びに係る工夫が進んでいる。単元や一時間の学習問題、課題についてはさらに、個々の児童の実態を把握し、個別最適な学びへの支援について、日常的な意見交換の場（職員の対話）づくりを進めることもできた。	B b	○「主体的、対話的で深い学び」を視点とする授業改善を継続する。本年度力を入れてきた「対話」活動や授業のふり返りを次の時間に活かせる評価の研究をしていきたい。 ○お互いに授業を見合ったり、放課後、短時間でも時間を生みだし日々の授業の悩みや方策を語り合ったりする機会を大事にしていく。
			○学習問題（学習課題）・まとめのカードを用いた板書に心がけ、授業の流れにめりはりのある場面を位置づけることができたか。	○プロジェクター使用により、板書の仕方が変わってきている。学びの記録についても今後考えていく必要がある。 ○学習問題と学習課題、まとめと振り返りを子どもの学び沿って表す方法について、話し合ったり検討したりすることを通して共有する必要を感じている。	B b	○学び方や授業の基礎基本について、日々の学習・指導に活かせる内容を職員間で共有できるよう日常的に話す場づくりを進める。 ○児童や教師の願いや現在の姿を確認することができるよう、黒板提示板や板書の仕方、まとめや振り返り方に視点をあてた授業改善を進める。
		○伝え合う力の育成	○発達段階に応じた授業のルール（返事・発言・聞く姿勢など）を確立するとともに、自分の考えを説明したり、友達の考えを聞いて再度自分の考えを述べたりするなど伝え合う力を付けることができたか。ICT(情報機器活用)等を積極的に活用し、表現したり、伝えたりすることができたか。	○児童個々にあった学びを模索しながら、授業の在り方や学びの場について職員間で連携して進めることができた。特に、特別支援については体験入級や入級について速度感を持って対応することができた。 ○ＩＣＴ機器（iPad）を持ち帰り、日常や自宅待機時に活用することができた。	B b	○児童の主体性に着目して授業改善や学習環境整備を進めてきたことで「こうあるべき」の視点から脱却しつつある。引き続き児童に必要な学び方について模索していく。 ○伝え合う力、発信する力をつけていくために、ICT 機器を有効的に活用（共同閲覧機能、共同編集機能、プレゼン機能等）した授業を推進していく。
	生徒指導	○児童理解に基づいた指導	○児童の気持ち・心情に寄り添った対応を心がけることができたか。 ○学校内をはじめ、家庭との連携が密にされているか。	○担任はもとより全職員で、児童と関わり合いをもつことを大事にしてきた。児童の様子や気になる姿については、職員会議や学年会、支援会議を通して、職員全体で共通理解し児童への支援につなげてきている。	A b	○今後も家庭との連絡体制を密にし、信頼関係を築いていきたい。また、丁寧で素早い対応・支援をめざして、校内全職員が情報をできるだけ早く詳しく共有し、検討・実行できる校内支援体制を整えていく。できる限り、職員の連絡会を設けていきたい。
		○学校目標に基づいた適応指導や人権感覚の育成	○学校生活全般から児童たちと共に考える適応指導ができたか。 ○「いのち」や「心」の醸成をはじめ、あいさつやマナーの意識向上を図る指導ができたか。	○子どもの状況を把握し、「恕」の心について、朝の会や帰りの会、学級の時間で学年の発達段階に応じて具体的に指導してきている。また、いじめに関わる事象に関しては、気になったことをすぐに報告し合って対応し、その後の様子についても留意した。	B b	○場に応じた挨拶やマナーについては、その意義や方法などについて考えさせながら指導していく。また、言葉遣いや接するときの態度など、学校職員・家庭・地域の意識を高めるとともに、いじめは絶対に許さないという強い姿勢で指導にあたる。
学校	安全	○安全の確保	○具体的な場面（火災・地震・交通・廊下歩行・遊び）を想定して、安全指導を適時行うことができたか。	○避難訓練や引き渡し訓練、毎月一回の集団下校訓練で、児童は真剣に参加でき、防災・安全に対する意識・行動力を高めることができた。	A b	○安全安心の学校をめざして、家庭・地域に向けて、更に学校から呼びかけていく。また、アレルギーやけが等の緊急対応訓練の機会を増やすなどして、職員の危機管理意識を高めていく。来年度は南保育園との連携についても充実させていく。

運営	地域との連携	○地域の素材・人材の活用	○地域の素材を生かした教材化や、保護者・地域の方々に協力していただいた活動、保育園や中学校と連携した活動を展開することができたか。	○学年ごとの校外・体験学習、高学年の交流作業、クラブや読み聞かせなど、地域の方々に協力していただき人材を活用して充実した活動ができた。 ○「南小応援隊」（支援ボランティア）を募集して、支援をしてもらうことができた。さらに充実するように、子どもを育てる会や同窓会等にも協力を要請していきたい。	B a	○「南小応援隊」（支援ボランティア）の募集や教師側の活動計画（願い、内容、推進方法等）を充実させ、地域の人材リストの拡張・活用を行っていく。地域の方と学校とで「目指す子ども像」を擦り合わせる機会を気軽に設け、活動を共にしていきたい。 ○西春近南保育園との連携を進め、教育実践を深めていきたい。
		○おたより・懇談会や参観日・地域との諸会合を通しての情報公開や学校理解	○学校だより、学級だよりなどの家庭通知により、学校の様子を積極的に知らせることができたか。 ○学校公開・授業参観等を通じ、学習指導について保護者・地域の方々に理解してもらえたか。	○保護者には、学校公開日、保護者懇談会などに来校していただけた。アンケート結果「わかりやすい授業が行われている」はA,B 評価が 92%、「がんばりを認めたり、励ましたりしている」はA,B98%で、保護者からおおむね高い評価を得ることができた。	A a	○来年度以降も「地域と共にある学校」を目指し、「南風っ子」（学校だより）や学校行事、学校公開日などの「案内通知」を地域の回覧板や全戸に配付していく。 ○学校全体や子どもたちの様子について、西春近南 CS 運営支援委員会や南風っ子を育てる会、同窓会の会議において報告するとともに、保護者や地域に発信していけるように、学校だよりやホームページの内容についてさらに充実させていく。
	研修	○研究・研修の工夫・改善	○自己課題に沿って日々の授業改善（ねらいの明確化・シートの使用等）に努めることができたか。 ○研究会・研修会を通して専門性の向上や自己の修養に励むことができたか。	○「子どもの自主性を支える」を視点に、職員間での対話を活発に行ってきた。 ○非違行為防止に係り、校長からの話や研修、講師を招聘しての講演を行うとともに、教務会において委員会を行うなど、根絶への取組をしてきた。	A b	○非違行為根絶のためさらに職員同士で声を掛け合ったり、研修会を持ったりする。 ○地域に出て地元の方に学ぶ、学力向上・授業改善、人権教育、ICT、防犯・安全などに関わる職員研修を年間計画に位置づけ実施していく。